

ながの植物防疫

一般社団法人 長野県植物防疫協会

〒380-0837
長野市大字南長野字幅下 667-6
長野県土木センター内
電話 026-235-3510
FAX 026-235-3583



新年を迎えて

一般社団法人長野県植物防疫協会 会長 太田恒善

明けましておめでとうございます。
皆様には輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げますとともに、当協会の事業推進にご理解・ご協力を賜っていますことに厚く御礼申し上げます。

昨年は、コロナウイルス感染拡大により社会生活や様々な産業に大きな影響を与えました。当協会においても無人ヘリ競技会を中止したほか、開催方法や参集範囲などを大幅に変更した事業も多く、会員を始め関係の皆様にご心配を頂いたり、ご迷惑をおかけしたこと、心苦しく思っております。また、3月の記録的な高温により桜の開花が統計開始以来最も早くなるなど異常気象を象徴するようなスタートとなり、4月には幾度となく凍霜害が発生したほか、度重なる降雪、8月中旬の豪雨など気象災害が多発した年となりました。被害に遭われた産地、生産者の皆様には心からお見舞いを申し上げます。

さて、昨年5月、国は『みどりの食料システム戦略』を策定し、2050年には「化学農薬及び化学肥料の使用量をそれぞれ50%及び30%削減」、「有機農業を全農地の25%に拡大」することなどを目標としています。現在の技術開発状況をみるとその実現には相当な困難を伴うことが想定されますが、今後は、必要となる予算の確保や法制化が進められることとなっています。また、農薬取締法の改正による「既登録農薬の再評価制度」に対応した作物残留試験が始まるなど、農薬を取り巻く情勢は大きく変化しようとしています。協会としましてもこうした変化に迅速・適切に対応するよう植物防疫事業への取組を一層充実してまいります。

結びに、関係各位の益々のご健勝と長野県農業の発展をご祈念申し上げ新年のごあいさつといたします。



新年あいさつ

長野県農業試験場 鈴木正幸

新年あけましておめでとうございます。
皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より試験研究の推進にご支援とご協力を頂いておりますことに厚くお礼申し上げます。昨年

年は、春先からの低温・凍霜害、その後の降雪や夏季の豪雨など、地球温暖化の影響ともみられる気象変動により、作物の減収や品質低下等の深刻な被害が発生しました。また、「みどりの食料システム戦略」が公表され、脱炭素、化学農薬及び化学肥料の使用量低減等に向けた取組が、これまで以上に注目されることとなりました。

一方、世界最大規模のワイン・コンペティションで県が育成した酒米「山恵錦」を使用した日本酒が高く評価され、皮ごと食べられる赤いぶどう「クイーンルーージュ®」の本格出荷、リモコン式畦畔草刈機の完成・市販化など、一定の成果が見えた年でもありました。農業関係試験場では、引き続き生産現場の役にたてることを念頭に、地球温暖化への適応策や緩和策も含め、農業の生産力向上と持続性の両立に向けた技術開発を進めてまいります。その取組の一環として、緩和策では、水田からのメタンガスの発生抑制と省力・節水を両立するスマート水管理、土壌への炭素貯留、畜産からの温室効果ガス低減等の研究を新たにスタートしています。またIPM（総合的病害虫・雑草管理）など、これまで取り組んできた技術についても、さらなる取り組みを進めてまいります。今後とも、皆様の期待に応える研究に取り組んで参りますので、引き続きご理解とご協力をお願いします。

結びに、(一社)長野県植防協会の益々のご発展と皆様のご多幸をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

目次	
新年あいさつ..... 1	植防短信..... 5
令和3年の病害虫発生を振り返って..... 2	地域情報..... 6
令和4年度以降の薬剤耐性リンゴ黒星病対策について..... 2	協会だより..... 7
話題の農薬「ミギワ20フロアブル」..... 4	

令和3年の 病害虫発生を振り返って

長野県病害虫防除所

1 水稻

葉いもちは、7月上旬から中旬にかけて発病株が急増しているほ場がみられた。また、6月～7月上旬にかけて、葉いもち感染好適条件の出現数が平年の約2倍と多くなり、7月16日に注意報を発出した。8月中下旬に、県下全域で降雨が多く、一部のほ場では、上位葉への進展がみられ、東信、南信では穂いもちの発病穂率が高く、多発ほ場もみられた。

斑点米カメムシ類は、6月下旬の畦畔及び7月上旬の本田すくい取り調査において、一部の地域を除き、捕獲頭数が平年に比べて多かった。また、2地点の予察灯で、7月下旬の誘殺頭数が多く、7月30日に注意報を発出した。斑点米の発生は、中南信の一部地域で、平年に比べてやや多かった。

2 麦類

コムギ赤かび病は、5月下旬の巡回調査で南信の1ほ場で発生が確認された。また、5月中下旬に感染に好適な条件が各地で出現したことから、5月28日に注意報を発出した。6月上旬の巡回調査では、発生地点率、発病穂率は平年に比べて高かった。

コムギうどんこ病は中南信において、平年よりも早くから発生し、上位葉への進展もみられたため、4月19日に中南信を対象に地区注意報を発出した。その後も増加し、平年に比べて発生が多かった。

3 果樹

リンゴ黒星病は、まとまった降雨があり、発生しやすい環境条件であったが、DMI剤耐性菌に対する体系防除が徹底されたことにより、全般的に平年よりやや少ない発生であった。

リンゴ褐斑病は、6月下旬以降全県下で発生がみられ、平年より多い発生となった。一部では早期落葉などの被害が見られた。降雨等により薬剤散布間隔が空きすぎた園や、薬液がかかりにくい箇所での発生が多かった。

ナン黒星病は、巡回調査では、5月上旬から被害果がみられ、「幸水」「豊水」を中心に7月下旬まで発生が続いた。

ブドウ黒とう病は、6月下旬の巡回調査では発生はみられなかったが、収穫期には、特に「シャインマスカット」で果房の被害がみられ、全般的に多い発生であった。

モモせん孔細菌病は、巡回調査では、5月下旬は発病葉率が平年よりやや高かった。その後は平年並

となり、発病果率も平年並で、注意報を発表した前年より少なかった。枝病斑のせん除や秋季防除の徹底により発生が抑えられた。

4 野菜

果菜類では、梅雨期の降雨により、ジュース用トマトで、輪紋病の発生がみられた。きゅうりの露地栽培で、8月以降の降雨と収穫終期の防除圧の低下により褐斑病、炭疽病、べと病の発生が多い地域があった。

果菜類の虫害では、露地、施設栽培ともにアザミウマ類、アブラムシ類、ハダニ類の寄生がみられた。

なお、9月に県南部のトマトの施設栽培で、トマト黄化葉巻病及びタバココナジラミ（パイオタイプQ）が確認されたため、地区注意報を発出し、抜き取り等の防除指導を行うなど注意喚起を図った。

アブラナ科野菜では、夏季に軟腐病が各地のキャベツでみられ、はくさいでは、一部地域でピシウム腐敗病、べと病、黒斑細菌病の発生がみられた。ブロッコリーでは、収穫期に黒すす病がみられた。虫害では、アブラナ科野菜全般に、栽培期間を通して、コナガヤウワバ類などのチョウ目害虫による被害が多くみられた。

レタスでは、5月から6月にかけて、すそ枯病の発生が一部地域でみられ、梅雨期及び8月中旬以降は、斑点細菌病の発生が各地でみられた。その他に軟腐病、腐敗病の発生が各地で散見された。

アスパラガスでは、7月以降、茎枯病の発生が北信地域を中心に各地でみられ、秋まで継続した。中には、防除が追いつかないほ場も散見された。また、9月以降斑点病の発生が各地でみられた。虫害では、アザミウマ類・アブラムシ類・ハダニ類の寄生が多い地域があった。

その他に、6月に北信でトルコギキョウ斑点病、7月に南信でサツマイモ基腐病の発生が県内で初確認され、特殊報を発出した。

令和4年度以降の薬剤耐性 リンゴ黒星病対策について

果樹試験場 香取千文

平成30年に県内でDMI剤とQoI剤に耐性を持つリンゴ黒星病の発生が確認され、耐性菌対策をふまえた新しい防除体系に取組んで3年目となった。

防除体系の変更に加えて、令和元年から3年にかけてリンゴ黒星病菌の薬剤耐性検定を実施し、県内

の耐性菌の分布状況が把握できた。

今回はこれまでの検定結果をもとに薬剤耐性リンゴ黒星病菌の今後の推移予想と令和4年以降の防除対策の考え方を示す。

1 薬剤耐性リンゴ黒星病の分布と今後の推移予想

令和元年から3年にかけて実施したリンゴ黒星病菌の薬剤耐性検定の結果を示した(表1)。

(1) DMI剤耐性菌

北信地域では広域に点在しており、北信以外の地域においても検出事例は少ないが確認されている。耐性菌の密度は低い状態であるが、検出ほ場数は徐々に増加している。

過去にDMI剤耐性菌が確認されたほ場では、本年も検出される割合が高く、一度DMI剤耐性菌が発生するとほ場あるいはほ場周辺に耐性菌が存在し続ける可能性が高いと考えられる。

(2) QoI剤耐性菌

分布拡大と密度上昇が顕著である。QoI剤は輪紋病と炭疽病の防除薬剤として今後も継続して使用されるため、近い将来QoI剤耐性菌が優占すると考える。

2 令和4年以降の防除対策

(1) 防除対策の基本的な考え方

黒星病の発生を抑えるためには、初期の防除が重要である。葉は展葉直後ほど感染しやすく、時間が経過すると感染しにくくなる。初期感染により花そう葉で発病した場合、病斑上に形成される分生子により、その後展葉してくる葉や幼果への感染が継続的に起こり、大きな被害につながる。よって、花そうや葉そうの葉、新梢基部葉への感染をできるだけ少なく抑えることがポイントとなる。

(2) 令和4年度以降の防除対策について

前述の推移予想を基に、令和4年度以降の防除体系を示した(表2)。防除のポイントは以下のとおりである。

①DMI剤は黒星病防除の基幹薬剤として使用しない。

(赤星病の防除薬剤として活用する。)

平成30年以前は黒星病の重要感染期の開花期前後にDMI剤を使用していたが、耐性菌密度が急激に高まり、予兆なく果実被害に至る危険性が高いため、今後は黒星病の基幹薬剤として使用しない。なお、赤星病に卓効を示すため、発生ほ場では防除体系に加用する形で使用する。

②QoI剤(単剤)は単用せず、効果の高い殺菌剤を加用する。

QoI剤は炭疽病及び輪紋病対策として黒星病の増加が比較的緩慢な夏季に使用される。当年の黒星病の果実被害には直結しないが、単用により耐性菌の密度が増加し、越冬伝染源の増加による翌年の防除効果の低下につながる恐れがあるため効果の高い殺菌剤を加用する。

ただし、黒星病の非常発地で周辺を含め黒星病の発生がないほ場については、梅雨明けから秋雨前に限り、QoI剤を単用しても被害につながる危険性は低いと考えられる。

③黒星病の発生がみられる場合は、10月上旬まで防除を行う。

秋季の発生増加は翌年の伝染源密度の増加につながるため、黒星病の発生が見られる場合は、10月上旬まで防除を実施する。

(3) 苗木導入にあたっての注意点

苗木を導入する際、果実が結実するまでは防除を省略する場合があるが、黒星病だけでなく、他の病害虫により生育が遅延する恐れがあるため、苗木であっても防除を行うことが重要である。

黒星病を対象とした苗木の防除は展葉期頃が重要であり、黒星病の保菌苗の場合、この時期の防除を怠ると甚発生になる可能性が高い。定植後の苗木は栽培樹よりも発芽や展葉の時期が遅れる場合があるので、苗木の生育に合わせ防除を実施することが重要である。

表1 DMI剤耐性菌およびQoI剤耐性菌の検出頻度の推移(2019~2021年)

地域	DMI剤						QoI剤					
	ほ場別集計			サンプル ²⁾ 別集計			ほ場別集計			サンプル別集計		
	2019年	2020年	2021年	2019年	2020年	2021年	2019年	2020年	2021年	2019年	2020年	2021年
北信	6/276 (2.2)	6/282 (2.1)	9/42 (21.4)	6/1164 (0.5)	7/690 (1.0)	30/505 (5.9)	9/206 (4.4)	60/280 (21.4)	27/42 (64.3)	13/486 (2.6)	83/458 (18.1)	168/505 (33.3)
東信	0/18 (0.0)	0/4 (0.0)	-	0/47 (0.0)	0/8 (0.0)	-	0/11 (0.0)	1/5 (20.0)	-	0/20 (0.0)	2/9 (22.2)	-
中信	0/7 (0.0)	-	1/6 (16.7)	0/34 (0.0)	-	1/17 (5.9)	0/6 (0.0)	-	0/6 (0.0)	0/19 (0.0)	-	0/17 (0.0)
南信	0/2 (0.0)	-	0/5 (0.0)	0/22 (0.0)	-	0/19 (0.0)	0/2 (0.0)	-	0/5 (0.0)	0/9 (0.0)	-	0/19 (0.0)

注) 耐性菌の検出数¹⁾/検定数(割合%)

¹⁾ 遺伝子診断の結果、CYP51A1遺伝子に特定の変異が認められる変異型菌をDMI剤耐性菌、チトクロームb遺伝子のG143A変異が確認された変異型菌をQoI剤耐性菌とした。

²⁾ 検定にあたっては、罹病葉最大4枚(罹病果の場合もあり)を1サンプルとして検定した。

表2 令和4年度以降のりんご防除体系¹⁾の考え方

時期	令和4年	
	薬剤	備考
3月下	【発芽10日前】 石灰硫黄合剤	
発芽～ 開花	【展葉3日後】 ベフラン×1,000	◆展葉起点で防除を実施。 ◆展葉直後から黒星病の感染リスクがあるため、治療効果も期待できるベフランを推奨。 ◆展葉から開花直前まで日数があく場合には追加防除
開花 期間中	【開花直前】 ユニックス ミギワ のいずれか	◆赤星病の発生がある園地では、落花直後あるいは次回DMI剤を加用散布する。
	【落花直後】 SDHI剤の中から選択 ²⁾	
5月中下	従来と同じ チウラム、マンゼブ	◆発生地域では5月中～下旬に孢子形成阻害効果があるマンゼブ剤を推奨
6月～梅雨期間	キャプタン、有機銅	◆この時期にQoI剤を使用する場合は単用しない。
梅雨明け～秋雨	ベフラン、QoI剤2回、 etc	◆周辺および園内に黒星病の発生がなければ、QoI剤は単用しても良い。 (黒星病の発生が認められた場合はQoI剤に保護剤を加用する)
秋雨以降	基本的にQoI剤は単用しない (防除回数はH30と変わらず)	◆この時期にQoI剤を使用する場合は単用しない。
10月上		◆黒星病の発生がみられる場合はアリエッティCあるいはオゾンサイドを散布する。
12月上	石灰硫黄合剤	

¹⁾ 表中に記載の薬剤名 アリエッティC⇒アリエッティC水和剤、アントラコール⇒アントラコール顆粒水和剤、オゾンサイド⇒オゾンサイド水和剤、バスポート⇒バスポート顆粒水和剤、ベフラン⇒ベフラン液剤25、マンゼブ⇒ジマンダイセン水和剤またはベンコゼブ水和剤、ミギワ⇒ミギワ20フロアブル、ユニックス⇒ユニックス顆粒水和剤47、DMI剤⇒アンビルフロアブル、インダーフロアブル、オンリーワンフロアブル、スコア顆粒水和剤など、QoI剤⇒ナリアWDG、フロントフロアブル25など

²⁾ SDHI剤はオルフィンフロアブル、カナメフロアブル、ネクスターフロアブル、パレード15フロアブルの中から選択する。



農林水産省登録：第24408号

ミギワ[®]20 フロアブル

日本曹達株式会社 関東営業所

●はじめに

ミギワ[®]20フロアブル（以下ミギワ20FL）は、2014年度からNF-180フロアブル20の試験番号で（一社）日本植物防疫協会を通じて委託試験を開始し、2020年7月に農薬登録となりました。

有効成分イプフルフェノキン（通称：キノプロール[®]）は日本曹達株式会社が発明した新規系統の殺菌剤で新規作用機構と推定されており既存剤の耐性菌にも有効です。農作物の病害防除場面に本剤を利用していただくことで農業生産に貢献いたしたいと考えております。

●特長

本剤は既存の耐性菌にも有効であることを確認しており、病害防除のローテーション散布の一剤としてご使用いただけます。浸透移行性を有しており、

予防的な散布で優れた効果を示します。優れた残効性、耐雨性を示し果樹の病害防除において幅広い時期に使用できる薬剤になっております。黒星病、晩腐病、灰色かび病などを対象とした幅広いスペクトラムを有する殺菌剤です。

●有用生物への影響

ミツバチ	：影響なし
マメコバチ	：影響なし
チャバラアブラコバチ	：影響なし
ヒメカメノコテントウ	：影響なし
ミヤコカブリダニ	：影響なし
チリカブリダニ	：試験中

●花粉発芽への影響

りんご	：影響なし
なし	：影響なし

●上手な使い方

りんご：うどんこ病、黒星病、斑点落葉病に効果を示します。特に開花直前～落花直後の散布で黒星病、うどんこ病の同時防除が可能です。作物への安全性も高く、発芽期～8月末の使用において薬害は認められませんでした。

なし：黒星病に効果を示します。収穫前日登録を有

しておりますので幅広い時期でご使用いただけます。ぶどう：灰色かび病、晩腐病、褐斑病に効果を示します。開花期～小豆大の時期がおすすめです。また、果実肥大中期（大豆大）以降の散布は果粉の溶脱が生じるおそれがあるので注意してください。

もも：灰星病に効果を示します。梅雨時期から収穫期の灰星病防除の時期にご使用いただけます。汚れの少ない製剤です。

かき：うどんこ病、炭疽病、落葉病、灰色かび病の同時防除にご使用いただけます。

果樹の殺菌剤として今後幅広くご使用いただけますよう普及に尽力してまいりますので、何卒ご指導ご鞭撻賜りますよう、お願い申し上げます。



ミギワ20FLの最新の登録内容はこちらのページからご覧いただけます

作物名	適用病害名	希釈倍数	散布液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イプフルフェノキシを食む農薬の使用回数
りんご	うどんこ病 炭疽病 黒星病	2000～4000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	黒星病						
なし	2000倍						
おとし							
もも	灰星病						
ネクタリン	灰星病(すもも)						
小粒核果類	黒星病						
かき	うどんこ病 灰色かび病 炭疽病 落葉病	2000～4000倍					
	うどんこ病 炭疽病						
	炭疽病						
ぶどう	晩腐病 灰色かび病 褐斑病	2000倍					
かんきつ	灰色かび病	2000～4000倍					
茶	炭疽病	200～400L/10a	摘葉日前まで	2回以内	2回以内		

表1：ミギワ20FLの登録内容（2021年12月現在）

植防短信

長野県農薬管理指導士認定事業の実施について

県では農薬使用、農薬販売等に携わる者（農薬取扱者）に対して、農薬に関する専門的な知識を習得し、農薬取扱者の資質向上と農薬の安全使用の推進を図ることを目的に、毎年、長野県農薬管理指導士認定事業として養成研修（認定試験含む）及び更新研修を実施しています。

また、平成25年4月に改定された「住宅地等における農薬使用について」通知（以下「住宅地通知」という。）では、県や市町村等の地方公共団体が管理する公共施設等における植栽の病害虫防除業務等を実施するにあたり、植栽管理業務委託時の仕様書への遵守事項の規定や、適正使用に関する資格の入札要件化、研修会への定期的な参加などの具体的な取組事例が示されています。

この通知を受け、県では、毎年6月に開催する農薬適正使用研修会と今回実施する長野県農薬管理指導士更新研修会を、住宅地通知に規定する定期的な

参加を要する研修会と位置付けています。

令和3年度の研修会につきましては次のとおりです。

○長野県農薬管理指導士養成研修会及び認定試験
オンライン配信による研修会と現地会場での開催となります。

- 1 期日
令和4年2月21日（月）～22日（火）
- 2 開催方式等
【21日（月）】（研修会）
オンライン配信
【22日（火）】（認定試験）
長野県総合教育センター講堂
（塩尻市大字片丘南唐沢6342-4）

3 対象者
長野県内に住所または勤務先を有する満20歳以上の農薬取扱者等で、現に農薬取扱業務に従事している者。

○長野県農薬管理指導士更新研修会（住宅地通知指定研修）

- 1 期日
令和4年2月14日（月）、17日（木）
- 2 開催方式
オンライン配信。

両日、同様の内容となりますので、どちらかの期日を選択ください。なお、回線の都合上、人数を制限（定員制）しております。

別にWEB環境が整っていない方等対象にオンライン配信会場を設けておりますので、ご利用ください。

3 対象者

- (1) 農薬管理指導士認定期間満了者
- (2) 農薬管理指導士認定試験免除者
- (3) 植栽等の防除業者等

この研修会の概要および関係書類の提出方法等の詳細は長野県公式HPに掲載しておりますのでご覧ください。

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nogi/sangyo/nogyo/shidoshi.html>)

(農政部 農業技術課)

令和3年度 長野県病害虫防除研修会のお知らせ

今年度は、果樹の病害虫防除において課題となっている薬剤抵抗性、耐性について取り上げます。こ

れまでの取り組みや新たな知見について理解を深め、安定生産に寄与することを目的として開催します。

- ・主催 長野県病害虫防除所
- ・共催 (一社) 長野県植物防疫協会
- ・日時 令和4年3月1日(火) 13時～
- ・場所 長野県総合教育センター講堂(塩尻市大字片丘字南唐沢6342-2)

・研修内容
「長野県内におけるリンゴ黒星病のDMI耐性菌への取り組みについて」(仮題)

「リンゴ褐斑病の対応について」(仮題)

「ブドウ黒とう病に対するの薬剤耐性について」(仮題)

「殺虫剤・殺ダニ剤の抵抗性について」(仮題)

- ・講師 長野県果樹関係試験場研究員

正式な開催要領は決まり次第、速やかにお知らせしますが、新型コロナウイルス感染症の状況により、WEB開催に変更する場合がございますことをご承知おき下さい。

(病害虫防除所・小林富雄)

地域情報

自動運転田植機の実証・実用性評価

長野県では、農業現場における労働力不足の解消や生産性向上を図るため、ロボット・AI・ICT等の先端技術を活用した「スマート農業」の実装を支援しています。令和3年度は、全国農業システム化研究会の現地実証調査の一環として、長野農業農村支援センターで自動運転田植機（以下自動機）の実用性評価を行いました。県内の標準的な小区画圃場として飯綱町の大規模

水稻経営者にご協力いただき、自動機と慣行の有人田植機の作業性を比較し、技術の導入にあたり最適な経営規模を検証しました。

その結果、自動機の作業能率および精度は慣行機と同等で



作業の様子を確認する参加者

あり、水稻の活着率や生育に差は見られませんでした。今後、関係機関とともに、技術の導入に必要な対策や効率的な作業体系等を細かく検証していきます。

また、令和3年5月18日(火)に飯綱町で自動機(クボタ乗用型田植機Agri Robo NW8SA-PF-A 8条植え)の実演会を開催しました。当日は長野管内から約40名の生産者、JA、行政関係者等が出席され、自動機が無人で走行、旋回、移植作業を行う様子を見学しました。

(長野農業農村支援センター 宮入友理)



無人で移植作業を行う自動運転田植機

「耐雪型半促成雨よけハウスを用いた アスパラガス茎枯病対策」

北信地域はアスパラガスの露地栽培において県内有数の産地です。しかし、近年は重要病害である茎枯病が多発し、大きな減収要因となっています。

茎枯病は病斑上に小さい黒い粒（柄子殻）を作るのが特徴で、病原菌は雨滴で広がるため、露地栽培では一度発病すると次々と二次感染を繰り返す、最終的に被害が甚大となります。

茎枯病防除には茎葉上部を覆う雨よけが有効とされており、県内でも上伊那地域をはじめ、間口2.4～6.0m、軒高1.8～3.0m、太さ1.8Φの2条雨よけハウスが推進されています。しかし、飯山市、木島平村等の特に積雪の多い地帯では、融雪時にパイプそのものが折れ曲がってしまうため、雨よけハウスの導入は進んでいませんでした。

そこで、JAながのみゆきブロックでは平成29年から耐雪型の雨よけハウスの実証試験を開始し、令和3年4月に初めて飯山市に2条雨よけハウスを用いた半促成作型のアスパラガスほ場が導入されました。

このハウスは融雪時の折れ曲がりを防ぐため、通

常の規格より太い2.2Φのパイプが使用されています。本年の調査ではこの雨よけハウスを使用したことで約70%もの茎枯病抑制効果があることが確認されました。

また、北信農業農村支援センターでは、このほ場を地域モデルとして全2回のアスパラガスセミナーを開催し、新規の栽培者を中心に半促成アスパラガス栽培について理解を深めて頂きました。

今後も耐雪型雨よけハウスの有効性、耐久性について検証を続け、地域への波及を図っていきたくと考えています。

(北信農業農村支援センター 池田圭佑)



耐雪型雨よけにおけるアスパラガスセミナー

協会だより

令和4年版

「長野県農作物病害虫・雑草防除基準」
発行のお知らせ

★★★ 安全・確実な防除のための1冊 ★★★

病害虫・雑草防除の基本事項が集約されています。農薬の効果的な使い方、安全を確保する正しい使い方、総合的病害虫雑草管理（IPM）など環境にやさしい農業活動の実践のため、病害虫・雑草防除基準を活用しましょう。

令和4年2月上旬発行予定

価格：800円（消費税込み、送料別途）

お問い合わせ・ご注文は、
(一社)長野県植物防疫協会事務局 電話 026(235)3510、FAX 026(235)3583、または最寄りの農業農村支援センターまでお願いします。

発生予察用調査資材の斡旋について

効率的かつ根拠に基づいた防除やIPMの実践などには、病害虫の発生を予測する情報等が欠かせません。当協会では、(一社)日本植物防疫協会が取り扱う発生予察用調査資材を斡旋していますので、活用して下さい。

次ページに示す資材を提供していますが、それぞれの製品は防除目的に使用しないことが前提です。購入希望の方は、本協会のホームページ (<http://www.nagano-ppa.jp/>) から申込用紙を印刷し、必要事項をご記入の上、本協会までFAXで申込み下さい。

【行事】

- 11月9日 農作物病害虫・雑草防除基準編成会議 (須坂市)
- 11月12日 「ながの植物防疫」編集委員会 (長野市)
- 12月1日 朝日税理士法人会計指導 (長野市)
- 12月15日 2年度農薬等普及展示事業成績検討会 (長野市)
- 12月21日 病害虫発生予察事業成績検討会 (安曇野市)

「ながの植物防疫」はホームページでもご覧になれます。
URLは<http://www.nagano-ppa.jp/>です。

一般社団法人 長野県植物防疫協会 行
FAX 026-235-3583

[本申し込み用紙は、コピーしてご利用下さい。]

発生予察用調査資材申込書

(社)日本植物防疫協会の発生予察用調査資材申込規約(下記)に従い、本調査資材を防除用には使用しないことをここに明確にし、下記のとおり申込いたします。

1. 当協会では、発生予察(以下、調査研究を含む)に用い防除目的には使用しないことを明確にされた場合に限り発生予察用調査資材(以下、調査資材)の申込を受け付けます。
2. 当協会へ申し込み方は、その調査資材を使用する方が防除目的に使用しないよう十分に指導することとします。
3. 当協会で取り扱った調査資材について、防除目的に使用した場合は、その責任は申込者と使用者の責任とします。
4. 注文の間違いによるフェロモンの返品はおことわりいたします。

(必ずご記入下さい) 申込者氏名

年 月 日

(消費税込・送料サービス 取扱商品及び価格については予告なく変更になる可能性があります)

品目(対象害虫名)	社名	備考	本体価格	数量	品目(社名)・内容	本体価格	数量	色指定	
ニカメイガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		住友化学	12個	8,470円	—	
コブノメイガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		信越化学工業	12個	8,250円	—	
アカスジカスミカメ用	アース製薬	12個	8,250円		住友化学	12個	8,470円	—	
アカヒゲホソミドリカスミカメ用	信越化学工業	12本	8,250円		信越化学工業	12個	8,250円	—	
アワノメイガ用	アース製薬	12個	8,250円		サンケイ化学	12個	13,750円	—	
フタオビコヤガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		サンケイ化学	2個	11,000円	—	
イネヨトウ用	サンケイ化学	12個	11,000円		住化式粘着トラップ(住友化学)	セット(屋根1・粘着板12)	4,730円	—	
マメシンクイガ用	信越化学工業	12個	8,250円		屋根のみ	6台	3,960円	—	
ハスモンヨトウ用	住友化学	8個	12,980円		粘着板	12枚	3,520円	—	
シロイチモジヨトウ用	サンケイ化学	12個	11,000円		セット(屋根1・粘着板12)	4,180円		白・緑	
ヨトウガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		SEトラップ(サンケイ化学)	屋根のみ	6台	3,960円	—
オオタバコガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		粘着板	12枚	3,520円	—	
タバコガ用	サンケイ化学	12個	13,750円		粘着板	100枚	28,600円	—	
カブラヤガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		粘着板	100枚	16,500円	—	
タマナヤガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		粘着ネット	6枚	5,445円	—	
タマナギンウワバ用	サンケイ化学	12個	11,000円		粘着ネット用フレーム	6本	3,630円	—	
コナガ用	住友化学	12個	8,470円		粘着ネット	6枚	5,445円	—	
アリモドキゾウムシ用	サンケイ化学	12個	11,000円		粘着ネット用フレーム	6本	3,630円	—	
モモシンクイガ用	住友化学	12個(2ヶ月)	11,330円		粘着ネット	6枚	5,445円	—	
ナシヒメシンクイ用	サンケイ化学	12個	11,000円		粘着ネット用フレーム	6本	3,630円	—	
リンゴコカクモンハマキ用	住友化学	12個	8,470円		粘着ネット	6枚	5,445円	—	
リンゴモンハマキ用	信越化学工業	12個	8,250円		粘着ネット用フレーム	6本	3,630円	—	
コスカシバ用	信越化学工業	12個	8,250円		粘着ネット	6枚	5,445円	—	
ヒメコスカシバ用	信越化学工業	12個	8,250円		粘着ネット用フレーム	6本	3,630円	—	
モモハモグリガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		粘着ネット	6枚	5,445円	—	
キンモンホソガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		粘着ネット用フレーム	6本	3,630円	—	
モモノゴマダラノメイガ用	サンケイ化学	12個	11,000円		粘着ネット	6枚	5,445円	—	
チャバネアオカメムシ用	サンケイ化学	10本	22,000円		粘着ネット用フレーム	6本	3,630円	—	
スモヒメシンクイ用	信越化学工業	12個	8,250円		粘着ネット	6枚	5,445円	—	
ミダレカクモンハマキ用	信越化学工業	12個	8,250円		粘着ネット用フレーム	6本	3,630円	—	
クピアカスカシバ用	信越化学工業	12個	8,250円		粘着ネット	6枚	5,445円	—	
ヒメボクトウ用	信越化学工業	12個	8,250円		粘着ネット用フレーム	6本	3,630円	—	
カシノナガキクイムシ用	サンケイ化学	2個	17,600円		粘着ネット	6枚	5,445円	—	
ナシマルカイガラムシ用セット	サンケイ化学	6個専用粘着板30枚	13,200円		粘着ネット用フレーム	6本	3,630円	—	
アカマルカイガラムシ用セット	サンケイ化学	6個専用粘着板20枚	13,200円		粘着ネット	6枚	5,445円	—	
マメコガネ用	サンケイ化学	コガネコールA	5,280円		粘着ネット用フレーム	6本	3,630円	—	
シロテンハナムグリ・アシナガコガネ・ヒラタアオコガネ用	サンケイ化学	コガネコールC	5,280円		粘着ネット	6枚	5,445円	—	
カミキリ・ゾウムシ・キクイムシ・ハバチ等針葉樹寄生性昆虫用	サンケイ化学	マダラコール	5,500円		粘着ネット用フレーム	6本	3,630円	—	
スギノアカネトラカミキリ用(アサネコール)	サンケイ化学	アサネコール	9,680円		粘着ネット	6枚	5,445円	—	
訪花性昆虫(ハナムグリ、ハナカミキリ、ハチ等)	サンケイ化学	アサネコールBA	12,100円		粘着ネット用フレーム	6本	3,630円	—	
納品先	住所・TEL: 〒 - TEL() -								
請求先	品名: ITシート(サンケイ化学) 10巻入り 1箱 15,510円 黄								
請求先	虫取り君(サンケイ化学) 10枚×10袋 1箱 16,500円 黄								
請求先	コナダニ見張番(サンケイ化学) 誘引シート・トラップ 30枚×10個 3,850円								
請求先	交換用誘引シート 30枚 2,750円								
通信欄	申込数量が多い理由 ・設置箇所が多い。 約 地点 ・設置期間が長い。 約 か月間 ・設置場所の地形の変化が著しい。								